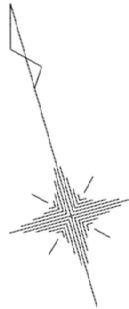
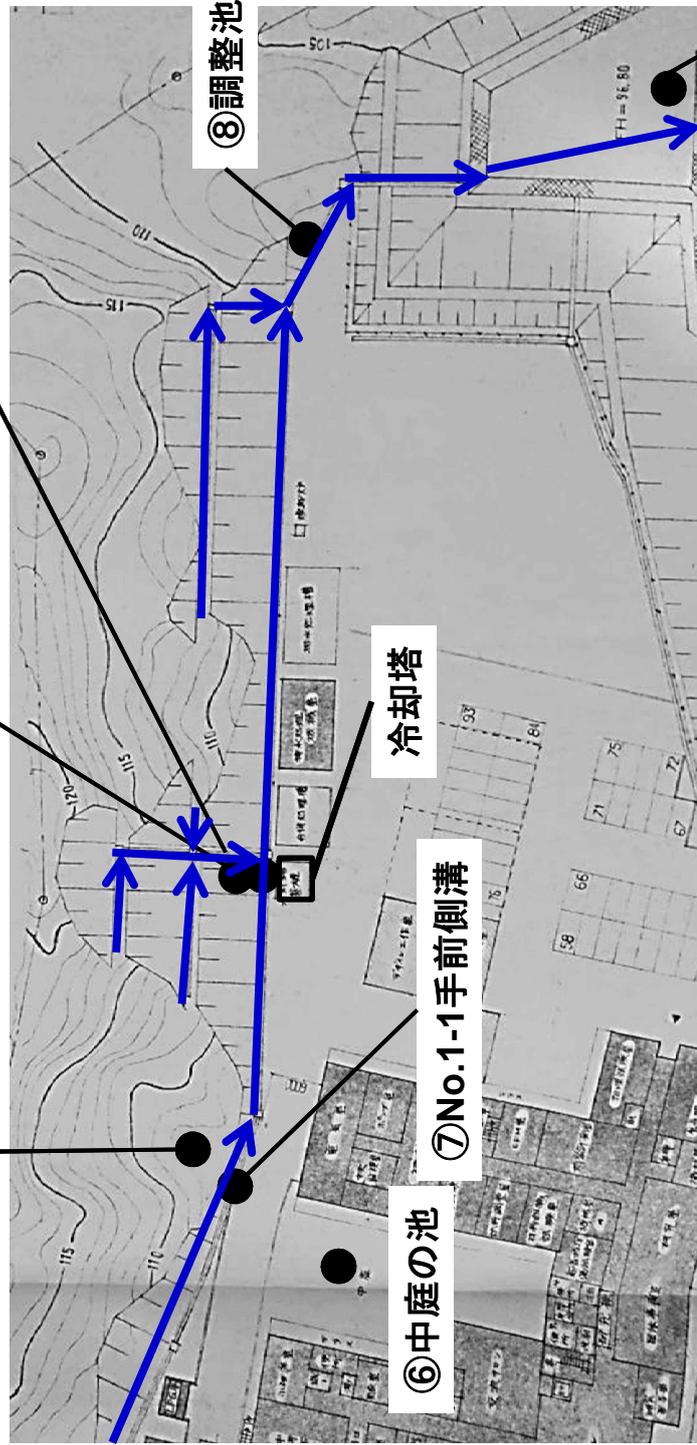


No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

◇ No.1-1井戸周辺の水路



- ①No.1-1井戸
- ②No.1-1周辺の土
- ③No.1-1周辺の枯葉
- ④冷却塔裏 法面
- ⑤冷却塔裏 側溝

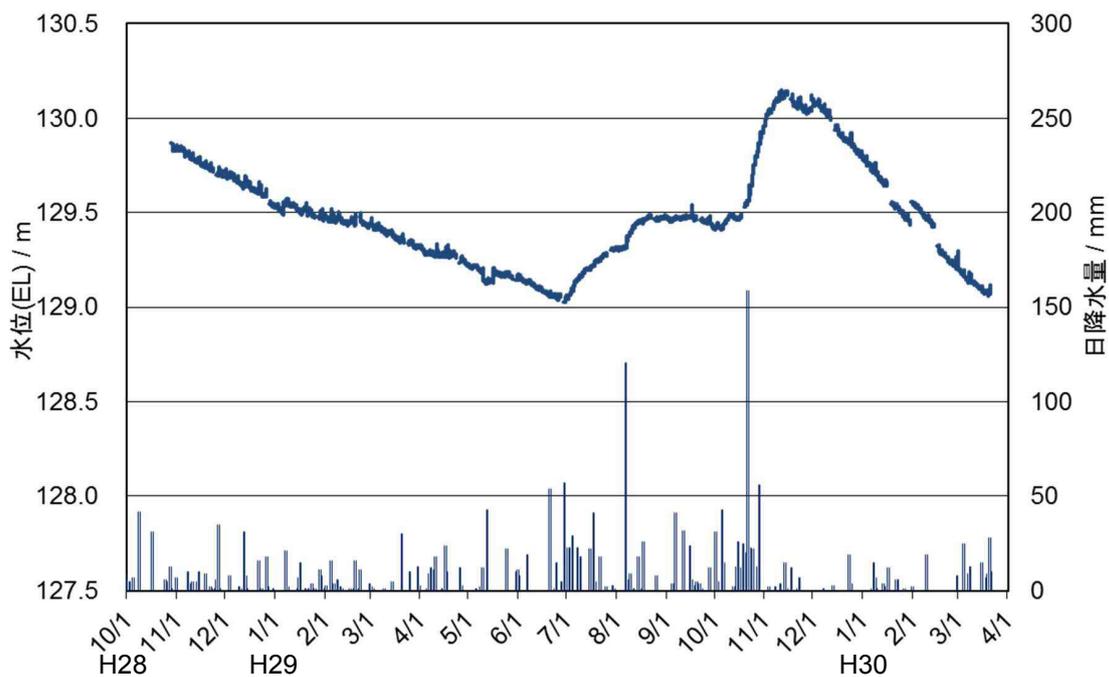


冷却水、雨水

水の流れ

No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

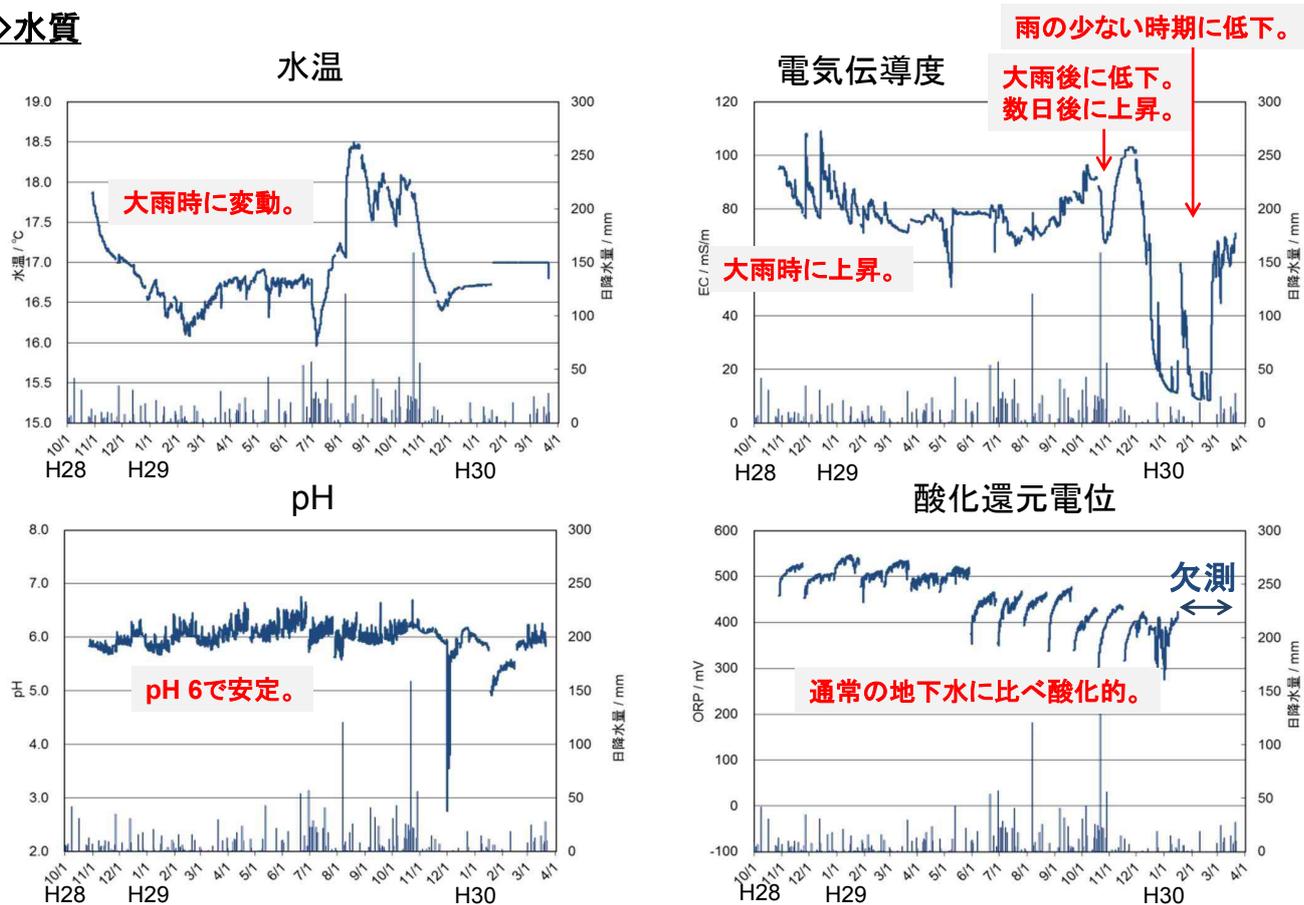
◇水位



降水量が非常に多い場合(50 mm/日)は上昇するが、通常の降水量であれば上昇しない。

No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

◇水質



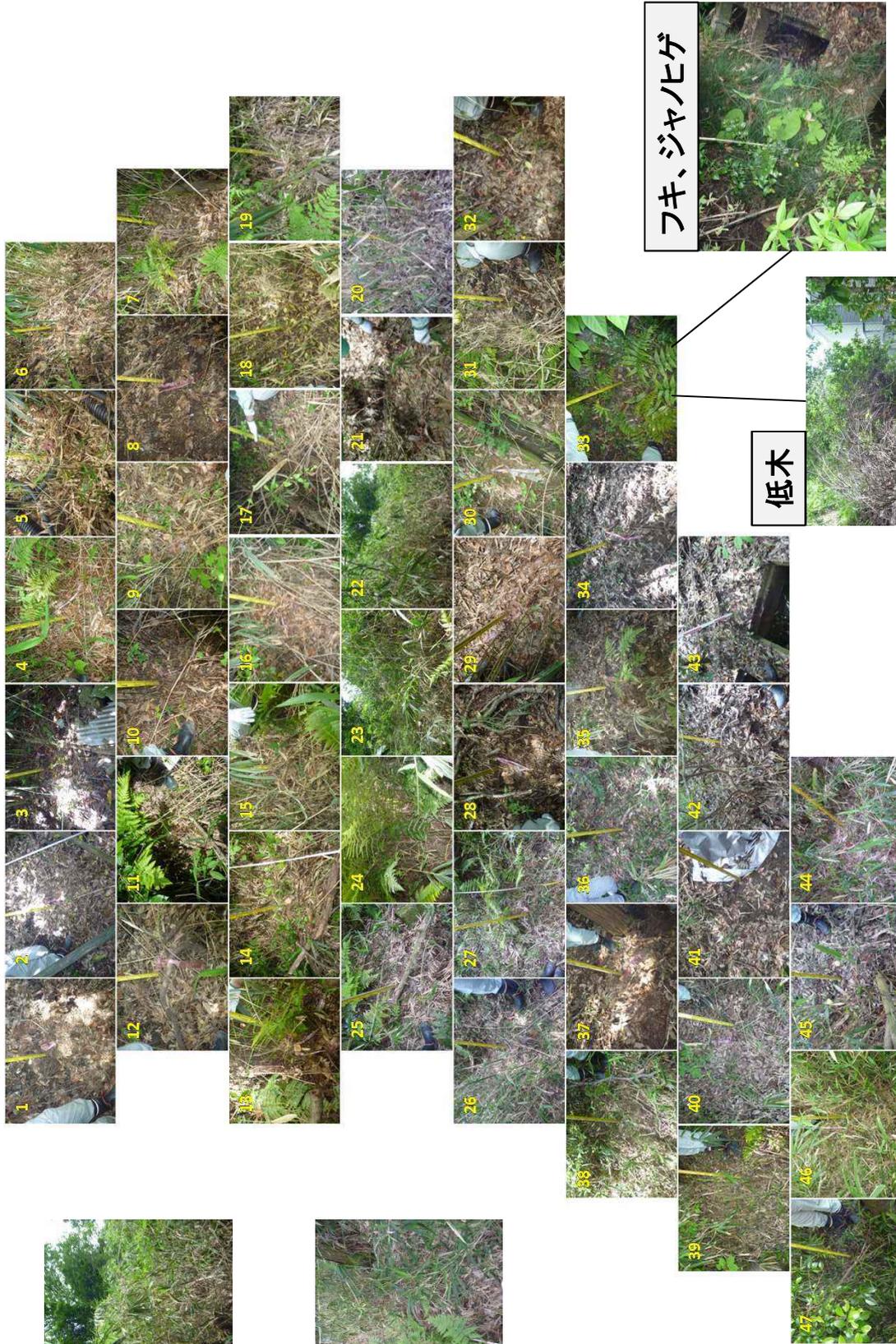
No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

◇ 下草状況調査結果 写真(H30.5.16)

ササ



シダ

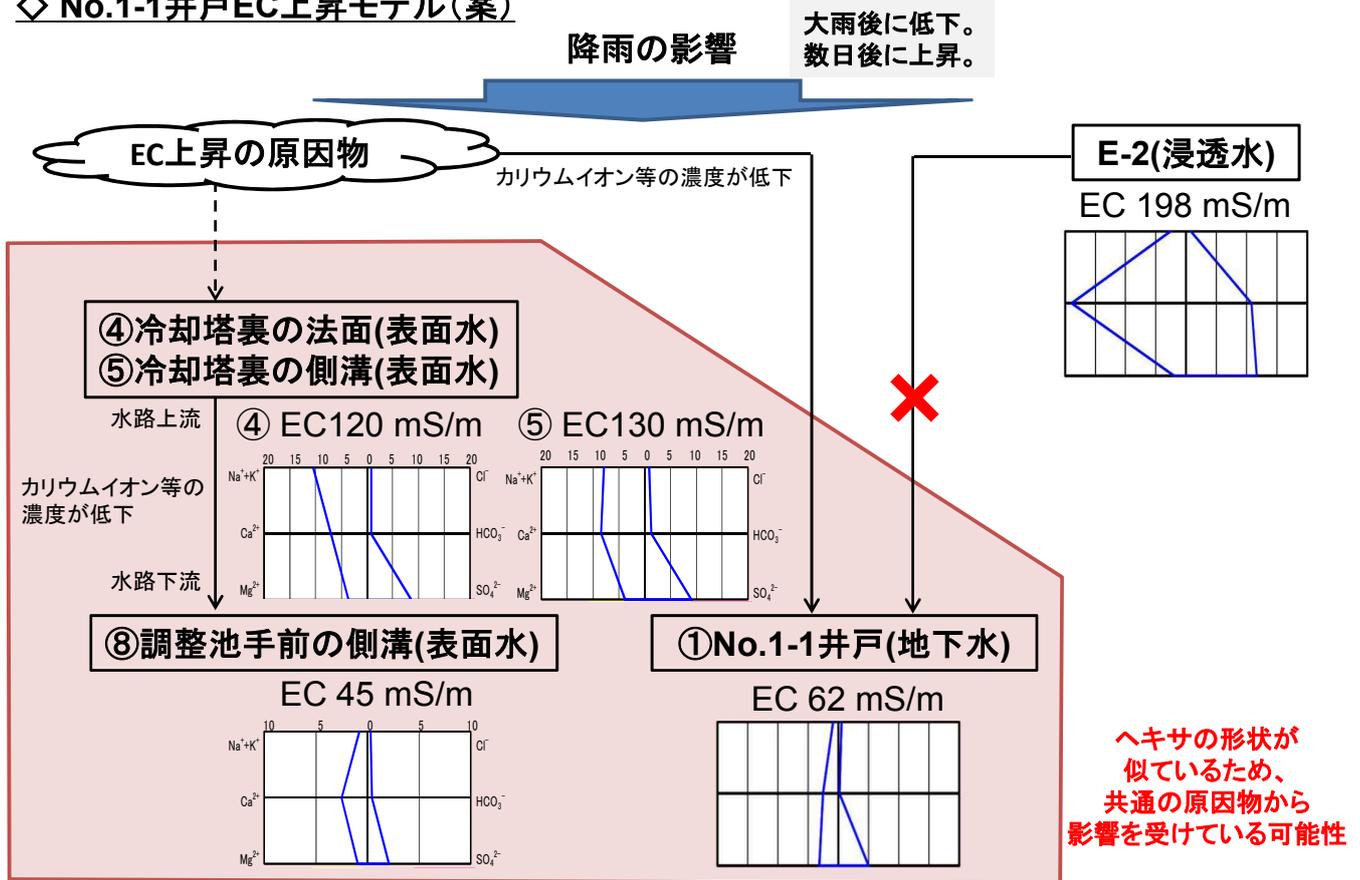


フキ、ジャノゲ

低木

No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

◇ No.1-1井戸EC上昇モデル(案)



No.1-1井戸における電気伝導度の上昇について

◇ まとめ

・ 表層土壌EC調査の結果は、全ての地点で21 mS/m以下の値であった。また、下草状況調査の結果、No.1-1井戸に影響を及ぼす範囲で特異な状況は見られなかった。No.1-1井戸周辺の表層土壌の汚染はないと考えられる。

・ ヘキサダイアグラムの形状から、最も近い処分場内井戸（E-2）の浸透水と相似形を示す地点はなく、浸透水の影響はないものと考えられる。

・ 地点⑧調整池手前側溝のヘキサダイアグラムが、①No.1-1のものと同形状を示した。また、地点④冷却塔裏法面および地点⑤冷却塔裏側溝の陰イオン（Cl⁻、SO₄²⁻、HCO₃⁻）の組成*が、①No.1-1のものと同様であった。これらは共通の原因から影響を受けている可能性がある。

No.1-1井戸周辺の表層に汚染が見られないため、地中にEC上昇の原因物が存在することが疑われる。

*陽イオンは土壌に吸着されやすいため、陰イオンの組成（Cl⁻、SO₄²⁻、HCO₃⁻）に注目した。

・ 梶山委員および小野委員から追加調査の方法について、No.1-1井戸の複数深度でのECのモニタリング調査や揚水により周辺地下水を入れ替えた後のEC調査の御提案を頂いた。